

金の説明や開催される地域ブロックでの先進的な取り組みの事例紹介などを実施するとともに、取り組みの現場の視察を行うことで、開催が容易になるとともに、参加自治体にとって有効な連携ネットワークの形成に資するものとなる。

(2) 第13回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会

1) 概要

『ユネスコ創造都市の市長ら 持続可能な開発のため文化へ力を注ぐ』

日 程 2019年6月10日（月）～6月15日（土）

2019年6月10日～15日にかけて、イタリアのファブリアーノにおいて第13回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会が開かれ、50人の市長を含め、世界の約145都市から480人が参加した。

市長らは文化に重点を置いた政策を通して、国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を達成することを誓った。また、「理想の都市」のテーマで、革新的かつ包括的な都市計画を実施するために、文化と創造性を活かすことによって各都市がどのように地域社会のニーズに取り組んでいるかという実施例を共有した。

6月12日、イタリアのセルジョ・マッタレラ大統領、ユネスコのアーネスト・オットーネ・R文化担当事務局長補、ファブリアーノのカプリエーレ・サンタレリ市長、ユネスコの MARIA・フランチェスカ・メルローニ創造都市親善大使が会談し、人と地域社会を結び、対話を促し、社会・経済・環境への建設的な変化をもたらす文化の力について強調した。マッタレラ大統領は、「文化はすべての境界を越える」と述べた。

①持続可能な開発のために 文化の横断的な力

参加者たちは教育・包括・環境・経済成長を含めた開発範囲への文化の役割に注目し、またSDGs（持続可能な開発目標）を達成するための文化の横断的な貢献に主眼を置いて、都市の未来について考察した。都市計画担当者や市長らは、持続可能でより良い都市にするため、非常に文化へ力を注いでいる。創造都市は新しい試みが実施されるにつれ、持続可能な開発の革新的な成功例をもたらす実験の中心地として頭角を現している。

例えば、文学の認定都市は、すべての人へ表現の自由と読み書きの能力を保証するとともに、多言語の環境を促進している。【SDG 4：質の高い教育をみんなに】食文化の都市は、責任ある生産と消費行動に向けて道を開拓する。【SDG 8：働きがいも経済成長も／SDG12：つくる責任つかう責任】映画と音楽の都市は、人権・平等・連帯を促す機会を提供する。【SDG 6：安全な水とトイレを世界中に／SDG10：人や国の不平等をなくそう／SDG16：平和と公正をすべての人に】デザインの都市は、ソーシャル・イノベーションや地球市民という考え方を推し進めるだけでなく、住宅や公共空間、アクセスや動きやすさについて再考する。【SDG 4／SDG11：住み続けられるまちづくりを】クラフト&フォークアートの都市は、世代間の対話と、地域社会の慣例の保護を保証するとともに、文化的な表現や伝統の多様性を活かす。【SDG11】メディアアートの都市は、新しい技術を用いて現代の都市の物語と空間を発展させ、文化的な表現を行う。【SDG11】

②LAB. 2030—革新的なアイデアを生み出す

会議では、創造都市が地方政策に文化を導入している様々な方法を説明した「都市の声：ユネスコ創造都市 持続可能な開発のための2030アジェンダへ向けて」と題した、「UCCN LAB. 2030 イニシアティブ」の発行を発表した。

例えば、使われていないインフラへの試験的な対策を含め、経済発展への新しい方針を調査するために、産業都市から将来を見据えた都市へ移行する戦略がフランスのサンテティエンヌで実施された。

ブラジルのサントスでは、主流から外されているコミュニティ出身の人々のために、技能開発を奨励し、エンプロイアビリティ（雇用されうる能力）を高めるクリエイティブ・ファクトリーが設立された。他にも、エジプトのカイロでは伝統と地方経済を結びつける新しい方法が出てきたり、オーストラリアのシドニーでは、地方行政が性別による偏見に立ち向かうことを誓い、女性作家の数が2015年から2018年の3年間で32%から53%に増加した。

現在、72か国に180の創造都市がある。地理・人口・経済によって異なるが、それらの都市はすべて創造的な産業を促進し、文化的な生活への参加を促し、文化を持続可能な都市開発政策に組み込むために、革新的な最善の方法を実施し、都市間で情報を交換している。ネットワークはまた、芸術的交流、認定都市間および公共部門と民間部門間の提携、そして調査をサポートしている。

2020年の年次総会はブラジルのサントスで「創造性、平等への道」というテーマで開催する。

2) 結論

日 程 2019年6月14日（金）

我々、ユネスコ創造都市ネットワークの加盟都市は、イタリアのファブリアーノにおいて第13回年次総会を開催した。開催都市のファブリアーノの寛大さと親切なもてなしに対し、感謝申し上げる。われわれは、国際協力を促すユネスコの方針と権限のために尽力する決意を新たにす。第13回年次総会は、協議により以下の項目について合意に達した。

ユネスコ創造都市ネットワークは、協働とイノベーションに向けたユネスコの国際的プラットフォームとしての立場から、

1. 「国連グローバルアジェンダ2030」に明記されている持続可能な開発に向けて、文化と創造性を活かすというネットワークのミッションの重要性を強調する。
2. 多様性と開発の基本的価値観を維持する。
3. 世界の都市レベルでの開発方向の多様性、および文化の多様性へ寄与し続けることを目的とするネットワークに必要不可欠なものとして、地域ごとに代表都市を置くことを復活させる。
4. SDG11に従って持続可能な都市やコミュニティを育成するため、文化・創造性・協働・イノベーションの効果を活かし、新たに指導を行っていく。
5. 創造性の効果に基づいてエビデンスを確立するマルチステークホルダー・パートナーシップにより、経験・知識・ベストプラクティス（最優良事例）の共有に大いに寄与し、社会的・経済的発展を支援する。とりわけ創造経済と地方機関の強化により、都市化の課題や機会に対応するため、コミュニ

ティにおける社会的関与や参加を拡大していく。

6. アジェンダ2030の精神に則って、地域・国・国際レベルにおいて持続可能な開発への影響と成果を証明・評価することに重点を置き、ユネスコ創造都市ネットワークの運営と持続性に対して長期的戦略を展開していくことを推奨する。
7. さらに、国や国際レベルにおいてネットワークの重要性や影響を拡大するために、特にユネスコ国内委員会、ユネスコチェア&インスティテュートの支援を得て、優先・強化された共通のコミュニケーションプランを通じ、クリエイティブクラスターだけでなく都市内や都市間の横断的な視点から、支援活動と共同事業に対する戦略を展開していくことを推奨する。
8. 研究と実践の関連性に基づいた政策設計や立案の情報提供をするネットワークの役割を広げるため、資源調査と経過測定を通して、この関連性をより明確に述べる必要性を強調する。
9. 調整委員会の現在の構成メンバーを支持する。任期は2年毎に更新される。また、ネットワークの戦略実施に向けて、各クラスター内におけるリーダーシップを確保するコーディネーターの責任を再度主張する。
10. 第14回年次総会がラテンアメリカで初めてとなるブラジルのサントスで開催されることを嬉しく思う。これはネットワークの活動が世界的に広がっていることを示している。

(2) 第13回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会

1) 概要

ユネスコ創造都市ネットワークHP “UNESCO Creative Cities Mayors Invest in Culture for Sustainable Development” を和訳したもの

<https://en.unesco.org/creative-cities/events/unesco-creative-cities-mayors-invest-culture-sustainable-development> (最終確認：令和2年3月24日)

2) 結論

ユネスコ創造都市ネットワークHP “CONCLUSIONS OF THE XIIIITH ANNUAL CONFERENCE OF THE UNESCO CREATIVE CITIES NETWORK 14 June 2019” を和訳したもの

https://en.unesco.org/creative-cities/sites/creative-cities/files/xiiiic_uccn_conclusions_eng.pdf (最終確認：令和2年3月24日)